

7.13  
水

和牛のオリンピックピックを目指して  
和牛能力共進会県選抜会

島根中央家畜市場(松江市宍道町)で、「第12回全国和牛能力共進会島根県代表牛最終選抜会」が開催されました。  
岸野昌士さん(上赤名)が飯南町・雲南市の代表として、雌牛1頭を出品。奥出雲町代表と、島根県代表の座をかけて競いました。  
岸野さんは「島根県代表の座は逃して、残念な結果となったが、次回5年後には代表になれるように、頑張りたい」と話していました。



岸野さんの出品した雌牛(まこ号)

7.15  
金

銀山街道の魅力を発信  
銀山街道案内看板除幕式

道の駅赤来高原に、銀山街道の案内看板が新たに設置され、除幕式が行われました。  
今回完成した看板は、銀山街道を活かした広域的な地域づくりに取り組む「銀の道広域連携実行委員会」が、銀山街道の魅力を知り、周知するために設置。これまで広島県側2カ所に設置されており、島根県側の1カ所目として、飯南町に設置されました。  
看板の設置を契機に、沿線の関係団体で協力し、地域資源を活かした広域的な地域づくりを進めます。



多くの人に銀山街道の魅力が伝わります

7.23  
土

夢の日藝選奨を目指して  
第11回高校生の神楽甲子園

広島県安芸高田市の「神楽ドーム」で開催された第11回「高校生の神楽甲子園」に、飯南高校神楽愛好会が出場しました。  
昨年8月から練習を重ねてきた成果を発揮し、息の合った演奏と激しい立ち合いを披露。結果、日藝選奨「最優秀賞」獲得は叶いませんでしたが、会場は大きな拍手に包まれました。  
主将の鹿田千陽さんは「最高の舞台で、仲間たちと神楽ができたことに感謝しています」と話していました。



演目は「羅生門」。13人のメンバー全員で臨みました

町内の社会人軟式野球チーム「スラッガーズ」が、厳しい予選を勝ち抜き、9月10日(土)から12日(月)に、宮城県で開催される、「高松宮賜杯第66回全日本軟式野球大会」への出場(中国地区から3チーム)を決めました。  
スラッガーズは主に飯南町出身の若者で結成。仕事の合間を縫い、練習を続けてきました。  
監督の藤原大樹さんは「選手一人一人が力を発揮すれば、全国でも通用すると思う。楽しんでプレーしたい」と話していました。



7月11日には全国大会出場を町長、教育長に報告

7.23  
土

地域住民同士の支え合い  
頓原地区防災研修会

頓原地区防災研修会がふれあいホール「みせん」で開催されました。  
参加者は講師の島根県中山間地域研究センター東研究員の「日頃の地域のつながりが、災害時に大きな力になる」と題した講演を聞いた後、各自自治区に分かれて、危険箇所や要支援者を地図に記入する「支え愛マップづくり」を体験しました。  
この研修会は、災害時に迅速に行動できるように「住みよい地域頓原会議」が主催し、約50人が参加しました。



拡大した地図で避難経路等を自治区毎に話し合いました

7.24・7.26  
日 火

飯南から茨城へ  
大しめ縄  
撚り合わせと  
奉納

大しめ縄製作館で、茨城県笠間市にある常陸国出雲大社に奉納される、大しめ縄の撚り合わせが行われました。  
大しめ縄は、製作期間4カ月、長さ約13.5メートル、直径約2メートルで、日本最大級。制作の最終工程となる撚り合わせは、ボランティアを含め約50人で行なわれました。  
7月26日(火)には、常陸国出雲大社で、多くの人が見守る中、大しめ縄がかけ替えられ、奉納されました。



大型クレーンを使ってかけ替えます

8.1  
月

元気に一日をはじめよう  
来島地区一斉ラジオ体操

来島交流センター前で「来島地区一斉ラジオ体操」が開催されました。  
朝6時半、来島地区の住民約20人が集合し、参加者は大きな円になり、ラジオ体操第一・第二で体を動かしました。参加者は「ラジオ体操で良い一日のスタートになった」と話していました。  
来島地区の一斉ラジオ体操は、コロナ禍でも住民同士が顔を合わせる機会を作るため、来島公民館が企画し、昨年度から開催。毎年8月1日に開催されます。



朝から体を動かし、気分爽快



「いっせーの」の掛け声で、撚り合わせます



かけ替えられた新しい大しめ縄と